

株主の皆様、お客様及び従業員の皆様へ

当社は、Gallaher社の買収により、世界第3位のたばこ会社としての地位をより強固なものとする事ができます。アジアでの強い事業基盤に加え、欧州、CIS地域でのプレゼンスが高まり、高い成長機会を持つ地理的バランスのとれたたばこ業界のリーディング・カンパニーとして、更なる持続的成長を目指します。

Gallaher社の買収

2007年4月18日、当社は、英国Gallaher社を完全子会社とする買収手続きを完了しました。

当社は、Gallaher社の買収により、世界第3位のたばこ会社としての地位をより強固なものとする事ができます。アジアでの強い事業基盤に加え、欧州、CIS地域でのプレゼンスが高まり、高い成長機会を持つ地理的バランスのとれたたばこ業界のリーディング・カンパニーとして、更なる持続的成長を目指します。

今回の買収では、「規模の拡大」「相互補完性」「技術・流通インフラの強化」等の統合効果が見込まれます。また、両社の事業を統合することで、トップラインの増加、及び事業の効率化によるコストダウンを通じ、多大な「シナジー（相乗）効果」を創出できるものと考えています。事業統合によって得られるシナジー効果を、早期かつ最大限に発揮できるよう、グループ体制の構築に努めていきます。

2006年度の業績

(1) 国内たばこ事業

国内たばこ事業は、総需要の減少により、競合他社との競争が激化する中、2006年7月のたばこ税増税の実施に伴い、事業環境は一層厳しさを増しています。総需要減少等の影響により、販売数量は減少しましたが、定価改定に伴う販売単価の上昇、コスト減、葉たばこ評価洗替差損益の改善等により、増益を達成することができました。

(2) 海外たばこ事業

海外たばこ事業は、6年連続のEBITDA二桁成長を持続するとともに、中期経営計画「JT2008」で目標として



木村 宏
代表取締役社長

いる「EBITDA成長率で年平均10%台半ば」を達成しました。2006年初めのスペインにおける増税・価格改定の影響により、利益面ではマイナス影響が生じましたが、他市場でスペインの影響を克服するとともに、適切な価格戦略により、スペインにおけるシェアは大幅に改善し、将来の収益成長への重要な布石を打つことができました。

(3) 医薬事業

医薬事業は、将来における柱事業を目指し、事業価値増大の早期実現に向け、臨床開発品の着実なステージアップと研究開発パイプラインの充実に努めました。高尿酸血症治療薬「JTT-552」が臨床試験段階に移行したことにより、現在、自社開発品7品目が臨床試験の段階にあります。導出・導入機会の戦略的な探索にも引き続き取り組みました。2006年4月には、前臨床試験段階の新規化合物をグラクソ・スミスクライン社へ、2006年12月には、前臨床試験段階の抗体医薬候補品をメデイューン社へ、それぞれ導出しました。

(4) 食品事業

食品事業は、飲料事業における自動販売機販路の拡大や缶コーヒー「Roots」の伸張、加工食品事業における冷凍加工食品及びチルド加工食品の事業量の拡大等により、増収増益を達成しました。

以上の結果、売上高は前年度比1,317億円増(2.8%増)の4兆7,694億円、EBITDAは前年度比312億円増(7.2%増)の4,646億円、営業利益は前年度比250億円増(8.2%増)の3,320億円となりました。

当期純利益は、Gallaher社買収に伴う資金調達関連費用及び成人識別機能付たばこ自動販売機の導入費用等が発生したものの、固定資産除売却損益の改善、減損損失の減少、事業構造強化費用の減

少等により、前年度比92億円増（4.6%増）の2,108億円となりました。

EBITDA、営業利益、当期純利益については、最高益を更新するとともに、EBITDA、営業利益については、6期連続の増益となり、「JT2008」の初年度は、順調なスタートを切りました。なお、2007年3月期の1株当たり年間配当金は、中間配当と合わせて4,000円とさせていただきます。

「JT2008」の2年目を迎えて

2006年度の業績を踏まえ、中期経営計画「JT2008」の達成に向けた、2007年度の方向性について、ご説明します。

(1) 国内たばこ事業

国内たばこ事業は、「JT2008」において、「利益創出の中核として、トップライン（売上高）の成長を中心に利益水準を維持」することを中期的な事業目標として掲げています。そうした中、2007年度はマイルドセブンが生誕30周年を迎える節目の年となります。No.1ブランドであるマイルドセブンのブランド価値強化を図り、マイルドセブンのシェア向上を目指していきます。

(2) 海外たばこ事業

海外たばこ事業は、「JTグループの利益成長の牽引役」として、市場ポートフォリオ及びブランドポートフォリオの拡充等を通じ、Gallaher社分を含まない、自律的成長ベースにおいて、10%台半ばのEBITDA成長を継続したいと考えています。既存ビジネスを着実に成長させていくとともに、Gallaher社との統合を円滑かつスピーディーに進めていきます。

(3) 医薬事業

医薬事業は引き続き、「開発品の着実なステージアップとR&Dパイプラインの充実」に向け、新規テーマの拡充、臨床開発のステージアップを目指していきます。

(4) 食品事業

食品事業は、「2008年度連結売上高営業利益率3.5%」の目標達成を目指し、引き続き、総合食品メーカーとしての基盤構築



に向け、競争優位性の強化・確立へ取り組むとともに、機会を捉えて積極的な事業拡大を行っていきます。

企業価値の増大を目指して

当社は、積極的な事業投資による持続的な利益成長の実現を通じて、企業価値を中長期的に増大させていくことが、株主の皆様を利益を増大させることの基本と考えています。

配当については、中長期的な成長戦略の実施状況及び連結業績見通しを踏まえつつ、資本市場における競争力ある株主還元を目指すことを基本方針とし、当面、連結配当性向20%を目指し、配当水準の向上に努めていきます。なお、連結配当性向は、2009年3月期以降、会計上要請される、のれん代の償却の影響を除いた当期純利益を基準とします。

また、内部留保資金については、その用途として、足許及び将来の事業投資、外部資源の獲得に充当するとともに、有利子負債の圧縮、経営の選択肢拡大に向けた自己株式の取得等に備え充実を図っていきます。

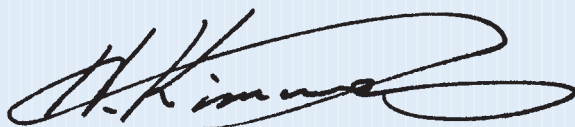
最後に

2007年1月、東京証券取引所の「ディスクロージャー表彰会社」に当社が選定されました。これは、東京証券取引所に上場する約2,400社を対象に、ディスクロージャーに積極的に取り組んでいる会社を選ばれるもので、今年はJTを含め7社が受賞しました。

今回、かかる栄えある賞を頂戴したことを大きな励みとして、企業の社会的責任を果たし、ステークホルダーの方々からの信頼と期待に応えるべく、これまで以上に企業価値の増大に努めていきます。

今後とも当社の経営に関し、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007年6月



木村 宏
代表取締役社長

